



2026年5月20日

各 位

会 社 名 株式会社極楽湯ホールディングス
代表者名 代表取締役会長兼社長グループCEO 新川 隆丈
(コード番号 2340 東証スタンダード)
問合せ先 執行役員 管理部長 日高 航太
電話番号 03(5275)4126 (代)

特別損失の計上

2026年3月期 連結業績及び個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社グループは、2026年3月期第4四半期連結会計期間（2026年1月1日～2026年3月31日）におきまして、特別損失を計上いたしました。また、当社は2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）の連結業績及び個別業績につきまして、前期実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失の内容

直営店舗の固定資産に対して各店舗単位で見積もりした回収不能見込額を減損損失150百万円として計上いたしました。

2. 業績に与える影響

本件につきましては、本日発表しました「2026年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）」に反映しております。

3. 2026年3月期通期連結業績

(1) 前期実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株あたり 当期純利益
前期実績値 (A)	百万円 15,164	百万円 1,140	百万円 1,279	百万円 769	円 銭 24.69
当期実績値 (B)	16,246	1,236	1,326	928	29.49
増減額 (B-A)	1,082	96	46	159	4.80
増減率 (%)	7.1%	8.5%	3.6%	20.7%	19.4%

(2) 差異が生じた理由

売上高は、アニメコンテンツやVtuber等とのコラボイベントを継続的に実施したほか、各店舗が地域特性に応じて実施した独自のお風呂・サウナイベントが奏功し、幅広い客層の獲得を実現いたしました。また、入館料金の改定に加え、2025年12月5日に「RAKU SPA Station 武蔵小金井」（東京都小金井市）を直営店としてオープンしたこと等により、16,246百万円（前期比7.1%増）となりました。

営業利益は、売上高の増加に加えて、新店オープンに伴う初期費用の計上や、最低賃金の引き上げに伴う労務費の増加があったものの、増収効果がこれらのコスト増加を十分に吸収し、利益を大きく押し上げる結果となったことで、1,236百万円（前期比8.5%増）となりました。

また、協賛金収入が16百万円減少したことや、シンジケートローン手数料が27百万円増加したこと等により経常利益1,326百万円（前期比3.6%増）となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、固定資産除却損が41百万円減少したことに加え、将来の回収可能性を再評価したことや減損損失の計上により法人税等調整額が減少したこと等により928百万円（前期比20.7%増）となりました。

4. 2026年3月期通期個別業績

(1) 前期実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株あたり 当期純利益
前期実績値 (A)	百万円 1,032	百万円 471	百万円 467	百万円 864	円 銭 27.73
当期実績値 (B)	1,197	477	433	781	24.80
増減額 (B-A)	164	6	△33	△83	△2.93
増減率 (%)	16.0%	1.3%	△7.2%	△9.7%	△10.6%

(2) 差異が生じた理由

グループ内における管理業務の効率化を目的とした人員の転籍受け入れにより、子会社からの管理業務受託売上が増加したこと等により売上高1,197百万円（前期比16.0%増）、営業利益477百万円（前期比1.3%増）となりました。

また、新規出店費用に充当することを目的で締結したシンジケートローン契約によりシンジケートローン手数料を計上したこと等により経常利益433百万円（前期比△7.2%減）となりました。

当期純利益については、連結子会社の財政状態により見積もられる当該子会社の債権に対して計上している貸倒引当金の戻入が前期に比べ減少したこと等により781百万円の当期純利益となりました。

以 上